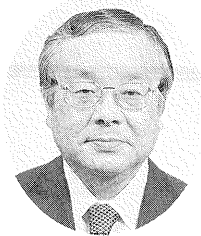


巻 頭 言



新しい年を迎えて思うこと

財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
 社団法人 全国農業改良普及協会 会長

武政 邦夫

早いもので新しい年を迎えて早一カ月が過ぎ節分を迎え春を感じさせる季節となりました。

それにしても今年を始め近年の冬は天候の安定しない年が多く先行きに不安を感じるのはいずれにしろ、この四十年の流れの中で今日の農業及び農村は極めて激しい状況下に置かれることとなったことは否めない事実でありともすれば先行きの方向性さえ見失いがちになりがちで、これまで農政の一端を担ってきた者として強く反省させられます。

天候が気になるのは、私自身、農業という常に天候が常に左右される産業と共に半生を過ごして来たせいでも有るのかもしれませんが。

若い頃は近世史を学び歴史家として一生を過ごそうかと考えた事もありましたが、ふとしたことが原因で農学部に進み作物学を選考したことから必然的に農政への道を進む事になりました。農水省で三十三年、その後の農林漁業金融公庫に六年、現在の農業改良普及協会でも早いもので二年になろうとしており、合わせると四十年以上を農業と共に過ごしてきたこととなります。この間、自らが何をなしたかを思うと内心忸怩たる感をぬぐえません。

しかし、この四十年を振り返ると幸か不幸か農政、農業の激動期に遭遇していたこととなります。入省した三十六年は農業基本法元年の年であり、退職した平成六年は新農政開始の年で新基本法への橋渡しの年でありました。

前半は、折からの高度経済成長に支えられた選択的拡大農政の時代で懸命に取り組みましたが、これも更なる経済成長による国民の食生活の変化から課題を抱え生産調整への移行を余儀なくされましたし、後半からは、日本農業も国際経済の流れの中に否応なく巻き込まれることとなりました。言葉も駄目で国際社会とも無縁で純粋国内派を自認していた小生さえも日米牛肉オレンジ交渉を手始めにその後のほとんどを外交交渉に迫られることとなりました。この動きは言葉でいうより遙かに激しく且つ影響も大きかった訳ですから農業者を始め関係者のかたがたのご苦勞は本当に大変だったことと思います。

むしろ、よく耐えてここまで踏みとどまって来られたと感謝したい気持ちです。

いずれにしても、この四十年の流れの中で今日の農業及び農村は極めて激しい状況下に置かれることとなったことは否めない事実でありともすれば先行きの方向性さえ見失いがちになりがちで、これまで農政の一端を担ってきた者として強く反省させられます。

しかし、協会に来て再び農業の現場に直面する仕事を頂き現代に立ち向かっておられる多くの農業者や農業関係者にお目にかかる機会をえて、私自身ももう一度二十一世紀農業の構築に参画したい気持ちになりました。

このさい感じることは二十一世紀農業は難しいことを考えるのではなく国民全ての方々に判りやすいものであることが大切とかがえます。

要は、全ての産業がそうであるように作られたものを使う人があって初めて成り立ちます。農業も消費者を始め国民の皆さんに安心と安らぎを差し上げること「帰るなんいざ故郷へ」の心で良いのではとおもいます。

今日、我が国は、低迷する政治、経済の中で農業者のみならず皆さんが進むべき方向性を見失いかつ安らぎの場さえ失っているのが現状だと思います。この時こそ農業、農村が本来持っている原点に立ち戻り安らぎを与えることが出来ればお互いに豊かさを享受しうるのでないかと思えます。

このことを持続的とか循環型とか難しく表現することも有りますが要は農業の持つ本質に戻れば良いのではないのでしょうか。植物調節剤に関わる皆さんもあたらしい農業構築の大切な要素を担う方々です。お互いに協力し現場の難問に答え出来る限り早期に新しい農業に具体的方向性の一端でも差し上げられる努力をすることが大切だと考えます。ぜひともに進みましょう。